アイデアバンク提案書（２６－７）

提案の名称	**朝倉「時空（とき）をかける」冒険キャンプ ～うちの子は『弥生人』になる～**
テーマ	■観光・史跡　□ 農畜産物　□ 文化・スポーツ　■教育 □ 子育て・福祉　□ 環境　□ ＰＲ　□ 防災 □ その他（　　）
エ リ ア	■観光地等　□ 遊戯施設等　□ 駅周辺　□ 直売所・公園 □ 公的施設　□ その他（　　）
提案の対象・意図	対象（市内外の小学生（１年生～６年生）親子） 意図（「デジタルデトックス」や、「自由研究への取り組み」といった実利を提供することで、朝倉市の豊かな自然と伝統体験を「価値ある教育資源」に活用する）
提案の背景	スマホの普及や、ゲーム依存などにより、特に都心部では「自然に触れる」機会が減っている。AIやバーチャルが普及する現代だからこそ、土に触れる、火をおこすといった「五感を使う実体験」が注目されている。また、朝倉市には「三連水車（歴史）」「平塚川添遺跡（古代）」「筑後川（自然）」「甘木絞り（伝統）」「原鶴温泉（癒やし）」という全国的に有名な資源があるので、滞在型（キャンプ）観光を通して、朝倉市の魅力に触れてもらい、一度きりのイベントで終わらせず、リピーターの基盤を作る。
提案の概要	スマホを封印し、弥生体験や朝倉/九州特産の食材収穫、筑後川SUPなどを1泊2日で横断する「デジタルデトックス・冒険キャンプ」を通じて、朝倉市の歴史・食・自然を五感で感じ、夏休みの自由研究完結とリピーター創出を同時に実現する。
提案の具体的内容	「スマホを預けて挑む冒険」として、例えば、平塚川添遺跡での弥生人体験（勾玉作り・火熾し）と特産の食材収穫を行い、キャンプ場に移動してから自ら確保した火と食材で朝倉づくしのキャンプ飯を楽しみます。 また、甘木絞りの藍染めで体験を形に残し、クライマックスに筑後川でのSUPで自然を体感して締めくくります。 伝統・歴史・遊びを横断するこの行程は、子供の「生きる力」を育むとともに、そのまま夏休みの自由研究として完結します。
事業効果	経済波及：キャンプ場や甘木絞り職人等多種多様な事業者への経済循環。 SNSによる二次拡散：体験中の写真を後日共有するため、帰宅後のSNS投稿（＝朝倉市の宣伝になる）が期待される。 教育的付加価値：「歴史＋自然＋伝統」がセットになっているため、夏休みの自由研究として学校に提出可能。朝倉市を「子供が成長できる街」として位置づける。 朝倉ファン（リピーター）の基盤作成：「来年もまた星を見たい」「別の季節の食材も食べたい」と思わせる情緒的な価値（キャンプファイヤーの思い出など）が強いため、朝倉市への再訪率が高まります。
特記事項	デジタルデトックス:スマホやパソコンなどのデジタル機器から、いったん距離をおくこと。 ずっと画面を見て疲れやすくなったり、集中力が落ちたり、気分が沈みがちになるのを防ぐために、意識的に“お休み”を取る方法。